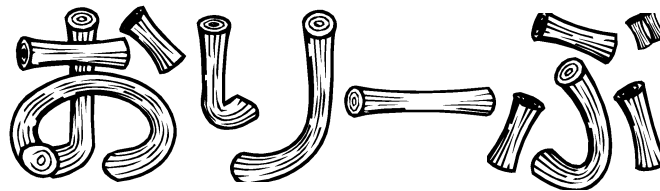




## 後援会ニュース



第154号  
2025年4月1日発行  
発行所:(福)るうてるホーム  
〒575-0002  
大阪府四條畷市岡山5-19-20  
発行責任者:大柴譲治

### 「オリーブについて」

るうてるホームチャプレン・理事長 大柴 譲 治

「彼は水のほとりに植えられた木。水路のほとりに根を張り、暑さが襲うのを見ることなく、その葉は青々としている。干ばつの年にも憂いがなく、実を結ぶことをやめない。」

(エレミア 17:8)

るうてるホームの後援会ニュースに「おリーブ」という愛称がつけました。これは職員たちが選んでくれた名前です。オリーブは「ブドウ」や「イチジク桑」などと並んで聖書の中にも出てくる木。たとえばノアの方舟の物語で、ノアが方舟から放ったハトがオリーブの葉をくちばしにくわえて戻ってくる場面が描かれています(創世記 8:11)。それは大水が引いて乾いた大地が現れたことの証拠なのです。ちなみにホテル・ザ・ルーテルのレストランの名前もオリーブです。9年前、私たち夫婦が大阪教会に着任した時にその前庭にオリーブの木を植えたところ、現在はずいぶん大きくなってきています。

オリーブの歴史は古く、既に紀元前三千年には地中海沿岸で栽培が始まっていたようです。そこから取られるオリーブオイルは健康や美容にも有用で、これまでも様々な場面で人間の生活を支えてきました。食用・薬用・化粧用・灯火用のみならず宗教的な儀式のためにも用いられてきたのです。オリーブは象徴的に「平和」「美しさ」「知恵」「勝利」「栄光」「長寿」「やすらぎ」などというもののシンボルとして用いられてきました。

イエスが十字架に架けられる前に祈った場所は「オリーブ山」でしたし、その別名であった「ゲッセマネの園」とは「オリーブの油搾り(酒ぶね)」という意味であり、さらに「キリスト」とは「油注がれた者(メシア)」を意味します。

オリーブの木には樹齢が300年から400年に及び、中には千年を越えるものもあります。それは神から私たち人間に与えられたいのちの祝福であり贈り物なのです。聖書の世界に思いを馳せつつ、感謝して味わってゆきたいと思っています。冒頭に挙げた預言者エレミアの言葉にある「水のほとりに植えられた木」のように、るうてるホームの上にも天から祝福の油、喜びの油が注がれているのだと私は信じています。

今年の5月27日に私たちは創立60周年の記念の時を祝おうとしています。その主題は「るうてるケアの継承～千年後の世界に向けて」です。千年を視野に入れて今ここを大切に歩いてゆきたいと願っています。皆さま、今後ともるうてるホームをよろしく願いいたします。天よりの祝福をお祈りしています。

シャローム(平安)



## るうてるホーム創立60周年記念イベント

おりーぶ 153号では企画の概要をお伝えしましたが、るうてるホーム創立60周年記念イベントの具体的な内容についてお知らせをいたします

\*\*\*\*\*

日 時：2025年5月27日（火）

場 所：るうてるホーム多目的ルーム（3F）

### ①記念礼拝・職員永年勤続表彰式（10：30～11：30）

記念礼拝を通じて、これまで支えてくださった皆様一人ひとりへの感謝の気持ちをお伝えし、これからの未来に向けて新たなスタートを切りたいと考えます。礼拝では例年通り永年勤続表彰式を行います。職員の皆様の長年の献身と努力に感謝し、共にお祝いをします。



<60周年記念ロゴマーク>

### ②記念講演会（13：00～15：30）

鼎談テーマ 「るうてるケアの継承～千年後の世界に向けて」

社会福祉法人光の子会 理事長 岩切雄太氏

日本福音ルーテル天王寺教会 牧師 竹田大地氏

社会福祉法人るうてるホーム 理事長・チャプレン 大柴譲治氏

三人の先生方のこれまでのご経験や実践をお聞きし、理念の具現化である「るうてるケア」を見つめ直し、新しいインスピレーションが得られることを期待しています。

### ③その他

60周年記念として、記念誌・記念品の作成を企画しています。

私たちが大切にしている理念に基づき、多くの方々や歴史に支えられ、今日まで活動を続けてこられたことを改めて実感しております。60周年という節目を、これから「千年」へと繋がる将来に向けたイベントにしたいと考えております。

なお会場の都合上、このイベントは関係者のみで行うことをご理解くださいますようお願い申し上げます。

「記念講演会」につきましては、YouTubeでのライブ配信（視聴者限定）を予定しています。詳しくは5月上旬にホームページでお知らせをいたしますので、そちらをご参照ください。

イベントについてのお問い合わせは、（担当者）高田・大野原・上川まで

\*\*\*\*\*

## 「リラ・プレカリア（祈りのたて琴）～共に在るひととき」

早野潤子

昨夏より、るうてるホームの皆様へ、コロナで中断していた「パストラル・ハーブ」の働きを再び定期的に届けさせていただけるようになり、心より感謝申し上げます。

スピリチュアルケアとして、歌とハーブによる生きた祈りを捧げるパストラル・ハーブについて「リラ・プレカリア研修講座」(JELA 主催)で学び、2018年から主に特養のお部屋でのご奉仕が始まり早7年、忘れられない出会いがたくさんありました。

目の前のベッドに横になっておられるその方の息遣いに聴きながら、ハーブと声の響きがそっと全身を包むように、その方に導かれるままに奏でるひととき。心の思いが聞き届けられますように、その方の歩んでこられた人生、そしてこれからの旅路、それらすべてひっくるめた今この瞬間を神様が祝福してくださいますようにと祈りながら…。

音楽で一緒する30分ほどのうちに、大きく肩で荒い呼吸をなさっていた方が次第にゆったりした呼吸になられたり、眉間をひそめギュッと握りしめておられた手がいつしか解けて穏やかな表情になられたり、すーっと寝息をたてて眠りに入られたり。音楽の後の静まりの中、蒸留水のように澄んだ一刻に共に在り、私自身がどれほどの恵みをいただいていたことでしょうか。

「言葉がなくても祈れるように神様は音楽をくださった」恩師キャロル・サック先生が最初に教えてくださった言葉を胸に、これからも一期一会に感謝して、ささやかな働きをお届けできれば幸いです。

(パストラル・ハーブ奉仕者／リラ・プレカリア（祈りのたて琴）研修5期修了生)

### -後援会ご献金感謝報告-

2024年12月1日から2025年3月15日までの献金総合計は、860,777円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます

## 「メタセコイアの会について」

木邨仁代

1965年5月、多くの方の願いや祈り、日本福音ルーテル大阪教会女性会のみなさんの活動により、四條畷の地にるうてるホームが生まれました。そして、その庭にシンボルツリーとしてメタセコイアの木が植えられました。メタセコイアは強く逞しくお客様や職員の夢を乗せ天に向かって真っすぐに伸びていきました。

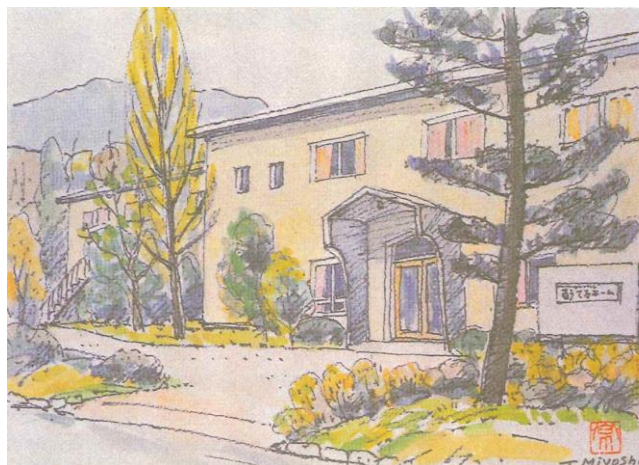
るうてるホームには半世紀以上をかけて培われてきた『お客様おひとりおひとりを敬いお仕えする』という理念があります。この理念を過去から現在そして未来へ、内にも外にも繋げていきたいという想いで、昨年1月職員有志サークル『メタセコイアの会』がスタートしました。

私たちのホームには神様とお客様、職員の間隔は隔たりはありません。お客様と共に祈り、喜びや悲しみを分かち合うという愛の本質を、職員は初代施設長の泉亮氏と働く中で学びました。泉元施設長は常に活力に満ち、退職されるまでの約30年間、多くの職員を導いてくださいました。

時の流れと共に時代は大きく変化し、人との繋がりが難しい社会になってきました。

社会の変化によって変えていかなければならないこと、今の時代だからこそ伝承していかなければならないこと、課題は多くありますが、私たちには60年間の愛の軌跡があります。

メタセコイアの会は昨年8月、泉元施設長をるうてるホームにお招きし『60周年の歩みを振り返る』と題してプログラムを開催しました。催しには、職員OBやボランティアOB、入居者の方など多くの方が集まりました。会の終了後、プログラムで泉元施設長とトークを繰り広げてくださった大柴チャプレンから「温故知新」ですね、と声を掛けて頂きました。私たちの願いは、正にこの言葉の中にあります。(特養・看護師)



### <編集後記>

後援会ニュース「おりーぶ」154号をお届けします。前号からリニューアルをしましたが、読みやすくなりましたでしょうか？時代の移り変わりとともにこういった紙媒体の広報誌も姿を消しつつあります。「おりーぶ」もいずれはメールなどの電子媒体になるのかも知れませんが、どのような形になっても、るうてるホームをお支えいただいている方々に感謝を込めてお届けすることに違いはありません。

記事をお読みになった感想やご意見など、お寄せいただけましたら編集の励みになります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。(石倉智史)